

# 第6回「日本語体験コンテスト in バンコク」

## 実施報告書



後列左より入賞者 5 名：CHAYANEE MASSAYAKONG、SIRIYAPORN PUGDEECHAT、AUSANA SORNNARAI、NUDCHA SITHIPREEDANANT、JIRAPORN BOETBO

前列左より：Witwist 先生（シーナカリンウィロート大学付属プラサーン高校）、坂上審査委員、北原審査委員長、菊川実行委員長、久芳一等書記官（在タイ日本国大使館）、柏木支店長（ANA バンコク支店）、Arisa Nimmanahaeminda 実行副委員長、Thanit 先生（カセサート大学付属高校）、岩見先生（ウボンラチャタニ大学）、Phiraya 先生（シーアユタヤ学校）

【実施日】2018 年 8 月 23 日(木)予選会 12:00～ 本選会 14:00～

【会場】タイ王国・バンコク市 PATHUMWAN PRINCESS HOTEL MF

【主催】一般財団法人 共立国際交流奨学財団

【現地運営団体】J-Study Center

【後援】文部科学省 在タイ日本国大使館 全日本空輸株式会社バンコク支店

【協賛】株式会社 共立メンテナンス

## <総評>

2013 年より開催している「日本語体験コンテスト in バンコク」は、今年で第 6 回目を迎えました。

8 月 23 日（木）タイ王国・バンコク市において、第 6 回「日本語体験コンテスト in バンコク」を開催いたしました。

116 名の応募のうち、71 名の方が当日の予選会参加となりました。今年度は平日開催ということもあり参加者は高校生が全体の 6 割を占め、制服での参加が非常に多いコンテストとなりました。

5 つの協力校からは、学校関係者が学生を引率して連れてきてくださいました。中にはバンコク市まで 8 時間かけて参加して下さった学生もいました。

予選会では、日本の地理、政治、経済、文化、文学、社会、流行など幅広い分野から、聞き取り問題 30 問が出題されました。来日経験のある参加者が過半数と、日本語を勉強して 1 年以上経過している参加者が 9 割いた為、どれだけ日本の時事問題や流行に対して関心があるかが予選通過のポイントとなりました。

予選会において高得点を獲得した 17 名が予選会を通過し、本選会では日本に関する即興スピーチを行いました。本選会で出された 3 つのスピーチ課題は

①あなたが日本語を勉強していて難しいと感じる文法（もしくは表現）はなんですか。具体的な理由や例を挙げて、話してください。

②あなたが日本語を勉強しようと思ったきっかけは何ですか。エピソードを交えて話してください。

③あなたの国と日本の文化・習慣で、大きく違う点は何だと思えますか。具体的な理由や例を挙げて、話してください。このテーマから 1 つを選択し、5 分のシンキングタイムの後、3 分間の即興スピーチを行いました。

②のテーマに関しては、アニメやマンガを通して日本語を学んだ方が多かったです。両親の仕事の関係で日本に住むことになり、日本語の勉強に大変苦労したと話す学生も数名いました。参加者の多くが一度は日本に来たことがあり、旅行や留学、ホームステイを経験し、他のコンテスト開催国と比べても既に日本との接点が多いということが分かりました。

本選会出場者は①のテーマを 5 名、②のテーマを 6 名、③のテーマを 6 名の方が選択しました。

そして、審査委員 3 名による審査の結果、5 名が入賞し、実行委員長より賞状と賞品目録を授与されました。

入賞賞品として、2019 年 1 月 20 日（日）～1 月 27 日（日）（7 泊 8 日 1 泊機内泊）の日程で、日本体験旅行に参加してもらいます。

この日本体験旅行を通じて、日本のよさを身をもって感じ、日本留学を志していただきたいと思っております。そして将来、両国の発展に貢献する人材となることを願っております。

## <実施報告>

### ■ 予選会

予選会	12:00～	開会の辞・注意事項説明
	12:05～	予選（日本語聞き取り問題 30 問）

日本の地理、政治、経済、文化、文学、社会、流行などについての聞き取り問題 30 問



注意事項説明の様子



応募総数 116 名中、71 名が参加  
一次予選（聞き取り問題）に挑戦

**成績上位者 17 名が本選会へと出場しました！**

### ■ 本選会

本選会	14:00～	予選通過者発表
	14:15～	開会の辞・審査委員紹介・注意事項説明
	14:20～14:25	シンキングタイム
	14:25～	スピーチ





3 分間の即興スピーチの後、審査委員からの質問に答えます。

## ■ 表彰式

表彰式	16:30～	「夢・日本体験賞」発表(5名)
-----	--------	-----------------

### <式次第>

- 一、開会の辞
- 一、実行委員長挨拶
- 一、来賓挨拶
- 一、審査委員長講評
- 一、賞状授与
- 一、閉会の辞

### <実行委員長 挨拶>



菊川実行委員長

### <来賓 挨拶>



在タイ日本国大使館  
一等書記官 久芳 全晴様



ANA バンコク支店長  
柏木 寿州様

### <審査委員長 講評>



北原審査委員長

### <審査委員>



坂上審査委員

### <賞状授与>



入賞者 5 名に菊川実行委員長より  
賞状と目録が授与されました。

### <奨励賞授与>



北原審査委員長と  
Arisa 実行副委員長より  
一次予選通過者 12 名に  
奨励賞が授与されました。

## 入賞賞品 『夢・日本体験賞』



氏名 <sup>◇</sup>	在籍校 <sup>◇</sup>
スイリヤボン パディチャート <sup>◇</sup> SIRIYAPORN PUGDEECHAT <sup>◇</sup>	RAJINIBON SCHOOL <sup>◇</sup>
チャヤーニー マサヤコン <sup>◇</sup> CHAYANEE MASSAYAKONG <sup>◇</sup>	MIRAI SCHOOL <sup>◇</sup>
ジラポーン ボートボー <sup>◇</sup> JIRAPORN BOETBO <sup>◇</sup>	THAI-NICHI INSTITUTE OF TECHNOLOGY <sup>◇</sup>
ウッサナー ソンナーライ <sup>◇</sup> AUSANA SORNARAI <sup>◇</sup>	SRIAYUDHYA SCHOOL <sup>◇</sup>
ナッチャー シッティブリーダーナン <sup>◇</sup> NUDCHA SITHIPREEDANANT <sup>◇</sup>	SRINAKHARINWIROT UNIVERSITY PRASARNMIT DEMONSTRATION SCHOOL <sup>◇</sup>

入賞者 5 名には、『夢・日本体験賞』（7 泊 8 日の日本体験旅行）を贈呈致しました。



表彰式後の様子

2017 年度入賞者のソムポーンさんが、当財団の委託事務所「J-Study Center」へ入社しました。



日本体験旅行の体験談を説明する様子

ソムポーンさんはコンテスト運営として、スクリットさんは友人の応援に駆け付けてくれました！



2017 年度入賞者  
ソムポーンさん（左）スクリットさん（右）

## < 講評 >



**審査委員長 北原 賢三**

**(一財) 共立国際交流奨学財団 評議員・奨学金選考委員**

**神田外語大学 客員教授 兼キャリア教育センター長**

応募者が 100 名を超えるほどの盛況であった。バンコクでもかなり日本語学習者が増えてきたようだ。この会場では高校生を中心とする 14 歳から 17 歳までの応募者が多かった。

コンテストが開始され、最初に手を挙げてスピーチに臨めば特別なポイントが得られて有利なのだが、誰も挙手して登壇しようとする応募者はいなかった。最後まで司会者の指名を受けての登壇であった。その消極的な姿勢の応募者が多かったせいか、3 名ほどの応募者は登壇して一言も発せずスピーチを終えた。

スピーチの内容は日本語を学び始めたきっかけは、日本のアニメをみたことという動機が多かった。日本のアニメはただ笑わせる目的ではなく、人生に大切なことを教えてくれたというスピーチが数名あった。それと、日本に親の仕事の都合で中学生のときに行くことになり、止むを得ず日本語学習を始めたというスピーカーもいた。その本人の努力も評価に値するが、その日本語学習を支えていた日本の学校の教師の忍耐強さもスピーチから印象に残った。

日本とタイとの違いでは、日本では規則を守るがタイではあまり守らないという内容が多かった。主には、友達との約束時間にタイ人は平気で遅れてくるというものであった。日本人の約束や規則をまじめに守ろうとする態度をタイ人ももっと学ぶ必要があるとの意見であった。日本語を学ぶ上での難しさは漢字の学習が多かった。非漢字圏の学習者にとっては漢字学習が日本語学習の壁になるといわれている。それと、漢字の表意文字であるという性格になじみにくいのかもしれない。もう少し、漢字の表意文字である特徴を活かして漢字学習のおもしろさを伝えられないだろうかと思った。

コンテストを終えて、全体的に日本語のレベルがやや低いかという印象であった。ただ、多くの高校生を中心とした若い人々が興味をもって日本語学習に取り組んでいる姿を見て、大いに期待したいと感じた。